

第4段階 ガリラヤの大宣教

E. 十二使徒の任命と山上の教え

7. 山上の教え、第6部：

神への愛はひそかに施しと断食を行う動機となる

ディリージーザスニュース #073

基本テキスト: MT 6.1-4, 16-18 (並行テキスト: なし)

原則:

1 「わたしはあなたに命じる。人前で義を行なつて、人に見られることだけを考えてはならぬように。もし そうするなら、あなたは天の父から報いを受けないであろう。

寄付に適用される原則

2だから、貧しい人に施しをするときは、偽善者たちが人から尊敬されようとして会堂や通りでやつているように、ラッパで知らせないように、命じます。よく言っておきます。彼らはすでに報いを受けています。3貧しい人に施しをするときは、右の手のしていることを左の手に知らせないように、命じます。4それは、施しが隠れて行われるためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてく ださいます。

断食に適用される原則

16 断食をするとき、偽善者たちのように暗い顔つきをしてはいけません。彼らは断食をしていることを人々に見せるために、わざと暗い顔をしているのです。はっきり言っておきます。彼らはすでに報いを受けてい ます。

17しかし、断食をするときは、頭に油を塗り、顔を洗いなさい。18 それは、断食していることが、ほかの 人には知られず、隠れた所におられるあなたの父にのみ知られるようになるためです。隠れた所で見ておら れるあなたの父は、あなたに報いてくださいます。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ル ーク =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるま でその聖書の書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。旧約聖書からの引用は大 文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

位置

ガリラヤの山で

第4段階 ガリラヤの大宣教

タイムライン	西暦31年5月（第16月）
イエスの生涯	第4段階：ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	7. 山上の教え、第6部： 神への愛はひそかに施しと断食を行う動機となる

コメント：

前回の朗読で、イエスは、真の義の基礎として、弟子たちを神の無条件の愛で満たすことによって律法を成就するようになった方法の6つの例を挙げました。興味深いのは、イエスが7つの例を挙げるのではなく、6つで止めたことです。最初の奇跡でワインを満たすために選んだ6つの石の水がめのように、律法から6つの例を選んだのは、律法が真の義を確立するのに不完全であることを示すためだったと思われます。

律法にあるものはすべて善であり、聖なるものでした。しかし、律法の体系は、人々が正義を表現する方法を知る必要があるすべての状況に対応できるものではありません。愛だけが、人生のあらゆる状況で「正しい」ことを行う動機を与えることができます。愛は律法の成就であり、イエスと彼の罪の償いの犠牲は、どんな罪人でも完全な正義に到達できる方法です。7つではなく6つの例を挙げることで、イエスは、律法が常に指示していた真の正義の成就として、自分が完全であることを示しました（「7」という数字で示されるように）。

イエスはここで、弟子たちの生活における靈的訓練の問題に目を向きました。洗礼者ヨハネの信奉者たちは、すでにそうした訓練の1つである断食について質問していました(DJN #59)。パリサイ人は毎週、貧しい人々への施し、個人的な祈り、断食という3つの靈的訓練を実践していました。時が経つにつれ、これらの訓練は神に喜ばれる信仰者にとっての標準的な行動とみなされるようになりました。

しかし、イエスは、これらの習慣を定期的に実践している周囲の人々の心を見て、神の前で彼らの正当性を破壊する有害な靈的癌を見ました。つまり、神への真の愛によって動機づけられているのではなく、多くの人々が、非常に「靈的」であるという人間の賞賛と認識を得るために、寄付、祈り、断食をしていたのです。彼らは、他の人々が自分たちを見ていることを確信しながら、これらの訓練に従事しました。彼らの行動は神中心ではなく、自己中心的でした。

いつものように、イエスは、靈的修行に取り組む動機こそが最も重要な考慮事項であると教えることで、問題の核心を明らかにしました。イエスは、靈的修行に取り組むときに、常に動機に細心の注意を払うようにという命令を発することで、1節で重要な原則を述べました。イエスは、弟子たちが、与え、祈り、断食のライフスタイルで彼に従うだろうと想定していました。問題は、これらの修行に取り組むかどうかではありません。イエスと私たちにとっての問題は、「なぜ」私たちがそれを行うのかということです。

唯一適切な動機は神への愛であり、他人や自分自身から得た訓練から得られるものではありません。これもう少し詳しく見てみましょう

第4段階 ガリラヤの大宣教

イエスは、父なる神は私たちが「屬れて」行っていることを「見ている」とおっしゃいました。父なる神の存在は私たちの肉眼では見えませんが、非常に現実的です。なぜなら、父なる神は常に私たちを見ているからです。イエスに従う者はこれを信じ、それゆえ、愛が私たちに、神の喜びのためにこれらのことを行うように促すので、与え、祈り、断食することを選びます。つまり、私たちが神のために行うときに、神の喜びと楽しみを求めるのです。

私たちが父のためにこれらの訓練に取り組むとき、父が「私たちに報い」を与えてくださるとも言われました。その「報い」とは、栄光と名誉を与えることによって父に喜びをもたらすことです。神を愛する行為には、実際の永遠の結果、つまり報いがあります。どういうわけか、愛に動かされて神に奉仕する私たちのごく小さな行為は、神にとって貴重なものなのです。神は私たちの心を知っているので、そのどれもが無駄にはなりません。神への私たちの愛は、宇宙の王にとって実際に違いを生みます。

寄付をする際に匿名性を保つことは、寄付を行う動機の厳しい試金石です。私たちは、神以外の誰にも寄付について知られないように最善を尽くします。寄付を人間に知られたら困るでしょう。私たちの目標は、神が最初に私たちに与えてくださったものを受け取り、できるだけ多くを静かに困っている人々に渡すことでも、父なる神を微笑ませることです。パウロが言ったように、「神は喜んで与える人を愛される」のです。コリスト人への第一の手紙 9.7。私たちが寄付をする際に神に対して示す愛情深い態度は、私たちがひそかに神に捧げているものなのです。

断食にも同じ原則が当てはまります。断食の正当な動機は神への愛であり、食事やテレビ鑑賞、その他の娯楽などの他の作業から時間を割き、その代わりに神を求める個人的な祈りに時間を費やすことで表現されます。私たちは断食をしていることを、私たちが断食をしている神以外には誰にも知られたくありません。神は私たちが断食しているのを密かに「見てています」。ですから私たちも断食を個人的に、「密かに」行います。

イエスは、私たちができる限りのことをして断食するだろうと想定していました。イエスの命令は、神への愛に根ざした動機を維持し、神に喜びをもたらすよう細心の注意を払うことでした。秘密は私たちの動機を実際に試すものであり、正義の別の律法的な基準ではありません。それは神への愛で満たされた心に関する事であり、人々からの賞賛や認識への渴望ではありません。

応用：

あなたの寄付はどの程度神への愛から生まれたものですか。神への愛が大きければ大きいほど、自分の資力に応じて寄付をしようとして、匿名性を保つようより注意するようになります。あなたはこれらをどのように実践していますか。

あなたはどのくらいの頻度で断食をしますか？祈りと個人的な礼拝で神と二人きりで過ごす時間の価値は、この修行を通して神にどれだけの愛を表すかを決定します。秘密はあなたの方針です。あなたが個人的に断食を実践することは、あなたがどれだけ神を愛しているかを神に伝えることでしょうか？